

都市再生整備計画 事後評価シート  
和泉市北部地区

平成28年3月

大阪府和泉市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名	和泉市		地区名	和泉市北部地区			面積	812ha				
交付期間	平成24年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	694.45百万円	国費率	0.497						
1)事業の実施状況	事業名														
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設【北部リージョンセンター備蓄倉庫】 高次都市施設【北部リージョンセンター集会所】												
		提案事業	地域創造支援事業【北部リージョンセンター図書館】 まちづくり活動推進事業【北部リージョンセンターまちづくり協議会】												
	当初計画から削除した事業	基幹事業													
		提案事業	まちづくり活動推進事業【北部リージョンセンターまちづくり協議会】												
新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設【地方リノベーション事業】【北部リージョンセンター備蓄倉庫】 高次都市施設【地方都市リノベーション】【北部リージョンセンター集会所】													
	提案事業	効果促進事業【北部リージョンセンター多目的グラウンド】 効果促進事業【北部リージョンセンターイベント実施】													
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	中間値	目標年度	評価値	目標年度	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	指標1	市民一人あたりの図書館の利用回数	回/年	2.03	H22	2.80	H27	1.69	H26	1.77	H27	△	あり なし	近年スマートフォン等の普及により、情報がたやすく収集できるようになったこと等から図書館資料を借りる機会が減少しており、図書館を利用する人数が年々減少傾向にある。このことから、1年以内の目標値の達成見込みは難しいと考えられる。しかし、北部リージョンセンター図書室が開館したことにより、昨年度に比べ数値の改善が見られる。本館は夜8時まで開館していることから、仕事帰りの会社員や帰宅後の親子づれの利用もあり、オープン当初から毎月約10,000人が来館しており、一定の事業効果は得られたと考えている。 フォローアップについては、更なる効果を検証するため、その他の指標として、図書館来館者数を「人の賑わい」を示す指標として追加し、継続的に効果を検証していく。	平成29年6月
	指標2	市民一人あたりの図書館資料貸出点数	点/年	7.11	H22	8.90	H27	6.36	H26	6.60	H27	△	あり なし	図書館を利用する人数が年々減少傾向にあることから、1年以内の目標値の達成見込みは難しいと考えられる。しかし、北部リージョンセンター図書室が開館したことにより、昨年度に比べ数値の改善が見られる。本館は夜8時まで開館していることから、仕事帰りの会社員や帰宅後の親子づれの利用もあり、オープン当初から毎月約10,000人が来館しており、一定の事業効果は得られたと考えている。 フォローアップについては、更なる効果を検証するため、その他の指標として、図書館来館者数を「人の賑わい」を示す指標として追加し、継続的に効果を検証していく。	平成29年6月
	指標3	地域交流拠点施設の利用割合	%	24.77	H22	40.00	H27	22.48	H26	33.53	H27	△	あり なし	市民アンケートのうち北部地域を抽出し、集会所施設等をよく利用するかどうかの問いに対し、「よく利用する」「まあまあ利用する」と回答した割合について、目標値には達していないが、年々低下傾向にあった割合が本施設が開館したことにより増加した。本施設での町会会議の利用なども日常的に行われている。 今後もイベントや広報など、本施設の周知を図っていくことにより、ますます増加するものと考えている。	平成29年6月
	指標4	避難場所を把握している市民の割合	%	74.77	H22	93.00	H27	80.62	H26	83.82	H27	△	あり なし	市民アンケートのうち北部地域を抽出し、避難場所を把握しているかどうかの問いに対し、「避難場所を知っており、いざというとき行くことができる」「避難場所を知っているが、実際にいけるかどうか分からない」と回答した人の割合については、目標値には達していないものの、近年の大規模災害等により市民の防災意識が高まってきており、市としても防災リーダーの育成や出前講座の開催、自主防災組織の拡充に取り組み、地域の防災力強化に努めていることから、数値は年々増加している。 28年度には、北部地域において、地域防災訓練が予定されており、ますます地域住民の防災意識が高まることと予想されることから、本施設においても訓練時には連携した取り組みを行い、災害時には公共施設として、避難者を一時的に受け入れられる体制を整えるなどスムーズな対応ができるよう、北部地域の防災機能の強化を図る。	平成29年6月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	中間値	目標年度	評価値	目標年度	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	その他の数値指標1	図書館の来館者数	人/年	1,044,797	H23		985,790	H26	1,067,812 (内北部図書室来館者100,309)	H27			スマートフォン等の普及等、近年の社会情勢の変化により、市内の他の図書館では利用する人数が年々減少傾向にあるが、北部リージョンセンター図書室では7月の開館以来、毎月約10,000人に利用されており、一定の効果が得られていると考えている。 今後、読書に親しんでもらえるようなイベントを実施するなど、利用促進していくことにより、更なる来館者が見込まれる。	平成29年6月	
4)定性的な効果発現状況	北部リージョンセンターの整備にあたり、地域住民によるまちづくり協議会を設置し、協働で構想計画段階から協議を行ったことで、地域住民のニーズを的確に捉え、施設等の整備内容に反映することができたことから、地域住民のまちづくりへの参加意欲の高まりと施設への愛着が深まった。														
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				指標1～4やその他の数値指標につき継続的に数値を把握し、事業の効果を確認する。				
	住民参加プロセス	北部地域まちづくり協議会の設立					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も地域ニーズを捉え、施設の利用促進を図るため、継続実施していく。				
	持続的なまちづくり体制の構築	北部地域まちづくり協議会の開催					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 市民と行政の協働による施設利用促進のため、施設PR誌の作成やイベント実施等の取り組みを行う。				

## 様式2-2 地区の概要

### 北部地区(大阪府和泉市) 都市再生整備計画事業の成果概要

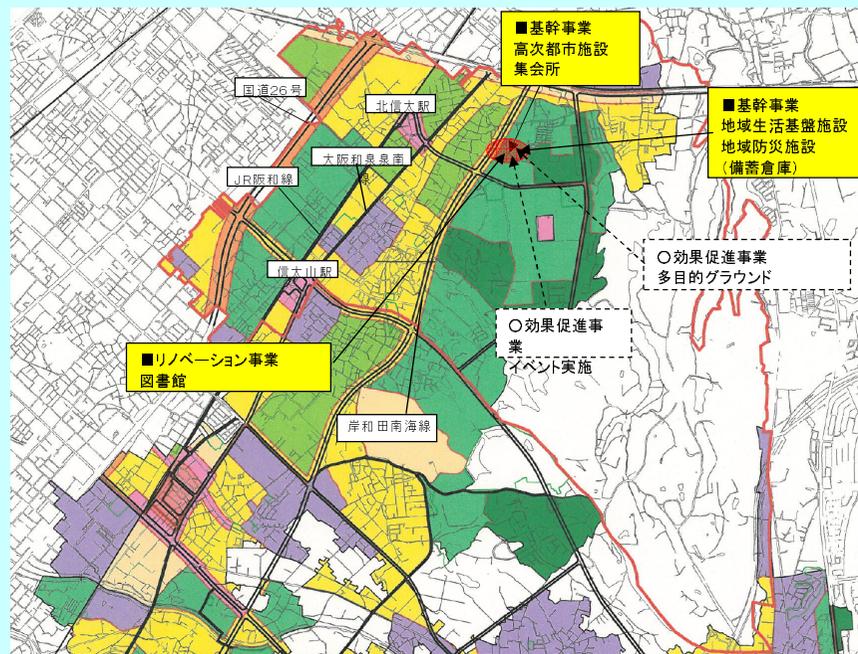
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	中間値	評価値	
・市民ニーズの多様化・高度化、市民の自治意識の高まりなどを背景として、「北部リージョンセンター」に図書館を併設することにより、生活利便性の向上と住民の活発な活動を促進する。 ・歴史的資源を活用した魅力の向上を図る。 ・地域住民誰もが学習できる環境づくりを目指す。 ・地域的な市民交流やコミュニティ活動の活性化を図る。	図書館利用回数	単位: 回/年	2.03 H22	2.80 H27	1.69 H26	1.77 H27
	図書館資料貸出点数	単位: 点/年	7.11 H22	8.90 H27	6.36 H26	6.60 H27
	地域交流拠点施設の利用割合	単位: %	24.77 H22	40.00 H27	22.48 H26	33.53 H27
	避難場所を把握している市民の割合	単位: %	74.77 H22	93.00 H27	80.62 H26	83.82 H27



北部リージョンセンター



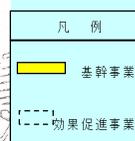
北部リージョンセンター図書



北部リージョンセンター備蓄倉庫⇒



←北部リージョンセンター集会室



多目的グラウンド ⇒



#### 【まちの課題の変化】

- ◆コミュニティ拠点機能に加え、行政窓口サービスや図書館を併設したことにより、地域住民の生活の利便性の向上が図られた。
- ①本市の4地域のうち、当該地域のみ核となる図書館が整備されていなかったことから、図書館が整備され、図書館の利用を通じて学習し、情報を入力し、文化的教養を高めることができた。また、図書室に自習室や幼児コーナーを併設し、おはなし会などの子どもを対象としたイベントの開催など、あらゆる世代が気軽に利用できる施設となった。特に高齢者の利用が多く、生涯学習の場として利用されている。
- ②以前は、地元町会・自治会の集會やだんじり會議などに人数に制限された町會館などを利用していたが、多くの人数が収容可能である本施設を利用することにより集會等に参加する住民が増え、地域コミュニティの醸成につながった。
- ③本施設では多種多様な講習講座が開かれており、地域住民誰もが参加できる生涯学習拠点施設となった。
- ④災害避難場所となる小・中学校と連携する防災拠点支援施設として位置づけ、備蓄倉庫を設置したことで、周辺避難地への不足物資の提供を行うとともに、ボランティア受付所や救援物資の集配が可能となり、北部地域の防災機能をバックアップする拠点施設として整備された。

#### 【今後のまちづくりの方策(改善策含む)】

- ◆本施設の一層の利用促進を図るため、開催イベント等の広報に、より注力していく。
- ①図書館の利用促進として、利用者層のニーズも勘案しながら、図書室の利用スタイルの提案や読書に親しんでもらえるようなイベントを開催するなど、あらゆる世代が気軽に利用でき、世代間の交流などさまざまな交流ができる施設を目指す。
- ②施設のオープン以来、町会・自治会をはじめ各種団体の會議等に日常的に利用されており、今後も施設PRを行い、施設の利用率の向上を図る。また、多目的グラウンドでは、従来より地域住民で行われてきたグラウンドゴルフの利用のほか、多目的な交流が図れる空間として、さらなる地域交流の活性化を図る。
- ③アンケートによるニーズ調査を行うなど、住民ニーズを的確に捉え、地域住民誰もが学習できる環境づくりを目指す。
- ④指定管理者とともに避難所である北部地域の小・中学校と連携した防災体制を整備し、また、来館者へは災害時における対応マニュアルのチラシを配るなど地域住民の防災意識の向上を図る。